

会員近況



大阪大学
大型計算機センター研究開発部 多喜 正城

新システムの勉強で多忙 以前、NEAC2200シリーズN500からN700への移行の時は、さほど苦痛を感じなかったが、今回、2200シリーズからACOS77シリーズS700の導入に際し、OSの様子が、平面従風型から、立体独立型(これらの語意は私個人のよび方である)に変更になり、とくにファイル関係の充実により、バッチ系、オンライン系のJOB形態の区別を、あまり意識せずにJOB処理できることは、ありがたいことであるが、それゆえ、大学のユーザー向けアナウンスや、また、大学独自の運用形態の考察等の勉強に忙しく、本来の自分の研究(数理計画問題関係)ができなくて、非常に残念に思っている。

なお、本年12月からS800が導入され、S700と置き換えられるため、当分、新システムの勉強に費されると思われるも、その先には、54年度からの次期システムの検討も予定されている……。まずは、近況まで……。

経営コンサルタント 上田 亀之助

アインシュタインは、「考えることだけで世界をつかむ」ことにいつも心がけたそうです。これはなかなかむずかしいことかも知れませんが、常に変化する環境に積極的に適応して、よりよく生きぬくためには、とらわれない心で自由にしかも賢く考える技術を身につけ、われわれの考えと行ないがうまく結びつくように勉めるべきだと思っております。そしてORとは、そのようなチエだと考えております。

モノゴトについて考えるにあたり、何を取り上げ、それをどのように進めてゆくかは、かなり重要なことだと思います。あまり複雑に考えすぎると、いつまでたってもまとまらず、また、あまりにも単純にしすぎると、極端に走り、誤りのもとになるおそれがあります。

数年前から小生はテトラ立体思考法に興味をもち、O

R誌Vol.21, No.5で発表させていただきました。テトラ立体思考がORにおける情報の予備的な処理等に少しはお役に立つのではないかと考えております。

東芝タービン工場
情報システム部 森山 秀一郎

空しさを逆手にとって…… ある業務にコンピュータ・システムを組み入れようとする、それに関わる人々は、否応なしに手かせ足かせが増えるように思える。システムをつくる側もそれを利用する側も時間と空間の中を正確に動くことを余儀なくさせられるのである。つい最近、そういった空しさをつくづく感じた時期があった。勤めはじめて3年目の夏のことである。そんな時、自分に「自然」を自然として見れる「ゆとり」があれば……と思い、はじめたのが絵を描くことであった。

生来、一つのことを考えはじめると、公私の時間の区別のつかない私にとって、退社した後、必ず絵を描くように自分をコントロールすることは、1日に節ができ、大変な益をもたらした。その結果、空しく思っていたことをあえて自分に課すことで(コンピュータを使うわけではないが、機械的に行動することには変わらない)「ゆとり」が自分にできたような気がする。

四国女子大学
家政学部 武田 常一

かくれんぼに悩む 2人がかくれんぼをするものとす。探す側、隠れる側どのように行動するのが合理的なのであろうか。このような事態における合理的行動はORにおける探索理論(岸尚先生から本誌に掲載されました)に見いだすことができる。

ところで、人間が実際にかくれんぼを行なうものとするれば探索理論から得られた合理的行動(記述理論)に沿った振舞いをするのであろうか。

筆者は2台の抽選器を用いてかくれんぼの状況を設定し、人間の選択行動を調べている。その結果から見れば規範理論に沿う行動はしていない。それでは人はどのような規準でもってその意思決定を行なうのであろうか(記述理論)。人間はある程度事後確率を計算してその判断を下しているようである。しかしペーズのそれとは一致しない。

そして現在悩める問題は、この研究とORとの関連性および適当な記述理論の構成であります。みなさまから

アドバイスをいただければ幸いに存じます。

三菱スペース・
ソフトウェア 八巻 直躬

いまの私の課題 OR学会には長年お世話になってます。「オペレーションズ・リサーチ」は毎号興味深く拝見していますが、多忙にとりまぎれ学会活動にはさっぱり参加できず相済まなく感じています。会社では宇宙開発事業団を通じ、わが国の宇宙開発計画にいささかのお手伝いをしています。そのほかに日本経営工学会会長その他のいろいろの公職をおおせつかって忙しい毎日を過ごしています。

三菱電機在職中40年近くIEを中心として勉強してきましたが、現在はIEと人間の問題、経営問題に対する工学的アプローチ、日本の経営のあり方などに関心もっています。機械化され、コンベア化される工場の人間の問題は、若い頃からIE屋として悩んできたものですが、近年仕事の人間化の問題として広く世界的に論議されるようになってきたので心強く思います。またIEやORの対象が、現場に近い問題から次第にトップマネジメントの問題を含む傾向になってきていますが、経営の実体という立場に立って、この分野にどのような方法で、どの程度まで工学的アプローチが可能なのか、今後勉強したい一つの課題です。さらに日本の経営について、単なる西洋的経営との比較論でなく、日本の歴史や伝統に培われた経営土壌と、合理的経営思想とをどのようにインテグレートしたら、真の日本のわれわれがめざすべき経営の姿になるのかは、非常に大きな課題ですが、いつか少しでも勉強したいと夢見ています。

千葉大学
工学部建築学科 服部 岑生

住宅・教育施設の評価法 私は、建築学科の建築計画研究室に所属しています。ご存知のことと思いますが、日本の大学の建築学科は、建築という工学・芸術の接点にある学問を工学部で受けもつという非常に微妙な問題をほとんど抱えています。建築計画の研究室は、建築設計計画の研究をおもな目的としておりますので、建築のデザインについての研究意欲が盛んで、美術論などの議論が毎日飛びかい、あたかも芸術大学の中の研究室のようです。

工学的な研究のほうでは、現在、住宅・教育施設の計

画に関する評価法について、関心もたれています。建築の計画案の評価は、評価の指標が非常に多く複雑な関係もっていること、評価主体によって評価値が大きく異なることなどから解決の困難とされてきました。またどのような指標を取り上げるか、取り上げた指標にどのような評価を与えるかなどについて評価主体で考え方に差があるため、社会的な有効性がないという議論もあったほどです。しかしながら、計画案の評価が必要な局面は、いたるところ、あらゆる時期にあるわけで、研究室での当面の主要テーマと考えております。たとえばプレハブ住宅では、イージー・オーダーの計画となりますので、あらかじめ住宅を必要とする人々のさまざまな要求にもとづく評価を加え、その結果のよいものを生産するという具合です。この種の建築には、小・中学校などの義務教育施設も含まれます。現在までの成果については、OR論文誌に掲載する内容ではないのですが、建築学会の論文として公表しております。

慶応義塾大学工学部
管理工学専攻博士課程 盧 淵源

輸送システム問題に取り組む 私は台湾からの留学生で、台湾の中原理工学院大学IE学科を卒業し、同学科で2年間助手をしたのち、慶応大学大学院で勉強しています。来日後ずっと千住鎮雄教授の研究室でお世話になっており、早いものでもう5年間経ちました。研究面では輸送システムに関する問題を取扱っており、いままで、走行距離の変化を推測する問題、トラックの経済性評価の考え方、ロット・サイズおよび配送回数の決め手などについて、本学会および日本経営工学会にて発表してきました。

今年8月には、経済性工学1週間セミナーや第4回経営工学—IE国際会議に出席させていただき、企業や学界の先生方にお目にかかって、よい勉強になりました。とくに、9月下旬、慶応工学会主催千住先生企画による経営科学活用法シンポジウムに記録係として参加させていただき、森村英典先生をはじめ、参加の諸先生方のOR/経営科学に対する情熱に感服しました。

また、ORの障害や進路などをさぐる検討も「一針見血」であり、今後台湾でORを推進行する際のよい参考にもなります。

私はいま「輸送システムに関する研究」を論文としてまとめるつもりです。ご指摘ご教示がいただければ幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げます。